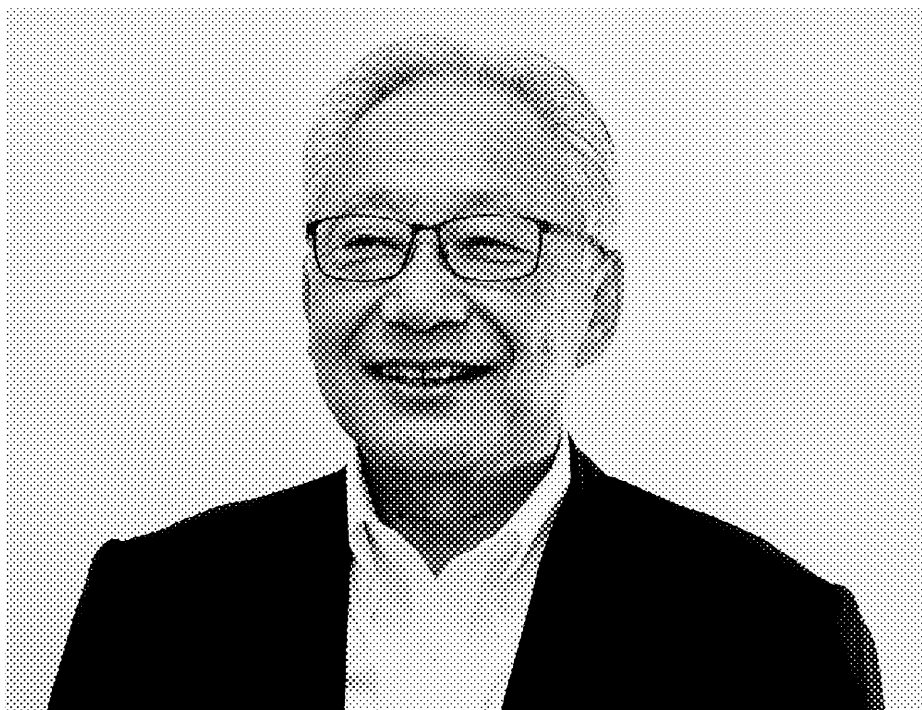


経営の こころ

日本省力機械社長

辰村 周平氏



25

「経営に答えはない。会社によっても人によっても異なる」と日本省力機械（大阪府茨木市）の辰村周平社長は捉える。その中で、小さくても良い会社にする〃を目標に置き、コンベヤーや自動機械の技術を生かしたタペストリーの製作を手がける同社を率いる。

良い会社とは「良い製品を作り、顧客が満足する会社」と位置付け、顧客がファンになってくれるような仕事を自指し

アンテナ高く一言を拾う

たつむら・しゅうへい 73年（昭48）立命館大工卒、同年日本省力機械入社。88年取締役、90年専務、94年社長。大阪府出身、75歳。

てきた。「スタッフの人間性や技術力、営業マナーも重要だ」として採用や教育にも注力する。

「顧客の考え方や時代の流れに敏感になる必要がある」として新聞やインターネットなどで情報のインプットも心がける。「アンテナ高く顧客の一言一言を拾う」姿勢を持ち、国連の持続可能な開発目標（SDGs）など世間の関心が高い項目を情報収集する。こうした姿勢が実を結び、「トラブル対応などで顧客から相談され、信頼されて

いると感じる」と手応えを得ている。

一方、主力のコンベヤーは、「時代の流れに乗せられないのが課題」という。コンベヤーは「50年ほど大きく技術進歩していない。錆や固着物などのトラブルも人が部品などを交換して解決できるが、課題でもある」と将来を思いやる。

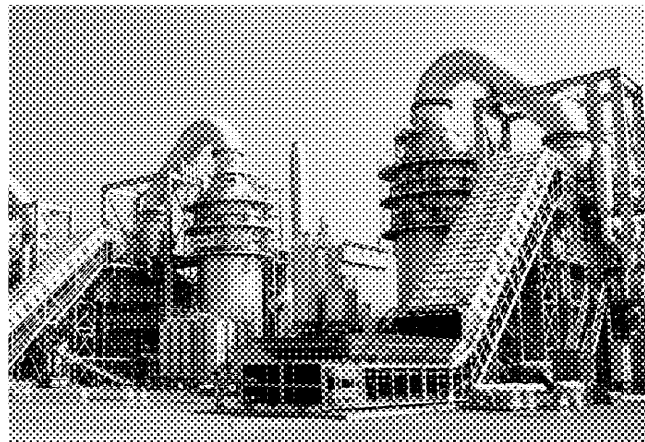
技術進歩がないことに対し「新しい発想で何かしないと」と奮起し、コンベヤーの左右のチェーンの張力を見える化して異常時の数値を故障の予知につなげる「スマートコンベヤー」を2015年に開発した。現在もコストダウンによる拡販を目指している。

また「素材を変えるだけでは



「魅力伝える」 心がけ

技術にこだわってコンベヤー事業を展開する（東日本大震災のがれき処理装置に用いられたコンベヤー）



ダメ」だとチェーンの長寿命化でも試行錯誤してきた。このほど投入したコンベヤーの固着物をたたき落とすハンマリング装置は、コンベヤーとローラーの摩擦を防ぎ、チェーンやローラーの寿命を延ばせる。

これらは現場に向き「仕方ないと諦めていた困りごとを見つけて解決を目指した」ことで製品化した。「メーカーとして現場を重視して実感し、技術にこだわりを持つて対応する」と強調する。

創業者で父の故辰村辰男氏の背中を見てきた中で「自分の背丈以上のことはしない」と慎重な一面も持つ。

（大阪・市川哲寛）

調。根拠を持ちつつ限界を追求する姿勢を持つ。入社5年目に訪れた大手プラントメーカーで「顧客と対等に話せる技術力をつけろ」と言われたことを常に心に留めてきた。

タペストリー製作は、じゅうたんメーカーからの自動機械の開発依頼がきっかけだった。「大手が対応しにくい規模で、技術力を見込まれたようだ」と事業展開の転換点になった。かつてソニーがシャツのポケットでトランジスタラジオの小